

① 名称類似に関する事例

# 注意を要する名称類似医薬品の組み合わせ

ヒヤリ・ハット事例のうち、名称類似に関する「薬剤取違い」の事例が166件報告されています（集計期間：2016年1月1日～12月31日）。このうち、主な薬効の異なる組み合わせ及び成分の異なるハイリスク薬を含む組み合わせは特に注意が必要です。2015年に引き続き2016年にも報告された注意を要する「名称類似医薬品」の組み合わせを以下に示します。

医薬品名 (主な薬効)	医薬品名 (主な薬効)
<b>アスパラカリウム</b> 無機質製剤	<b>アスパラ</b> －CA カルシウム剤
<b>アテレック</b> 血圧降下剤	<b>アレロック</b> その他のアレルギー用薬
<b>タケキャブ</b> 消化性潰瘍用剤	<b>タケルダ</b> その他の血液・体液用薬 (ハイリスク薬)
<b>ニコランジル</b> 血管拡張剤	<b>ニセルゴリン</b> その他の循環器官用薬
<b>ノイトロピン</b> 解熱鎮痛消炎剤	<b>ノイロビタン</b> 混合ビタミン剤（ビタミンA・D混合製剤を除く。）
<b>ノボラピッド</b> その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） (ハイリスク薬)	<b>ノボリン</b> その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） (ハイリスク薬)
<b>ノボラピッド</b> その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） (ハイリスク薬)	<b>ノボラピッド30ミックス</b> その他のホルモン剤（抗ホルモン剤を含む。） (ハイリスク薬)

- ※1 「主な薬効」とは、その医薬品が対応する個別医薬品コード先頭3桁の医薬品分類を示す。
- ※2 「名称類似医薬品」とは、頭文字が2文字以上一致している医薬品の組み合わせ、もしくはそれ以外で、報告事例に名称が類似していることにより取り違えたことが記載されている医薬品の組み合わせとした。
- ※3 薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業 平成28年年報 86頁 図表1-8、91頁 図表1-14、95頁 図表1-20をもとに作成した。

※薬局ヒヤリ・ハット分析表は、薬局ヒヤリ・ハット事例収集・分析事業（厚生労働省補助事業）において収集された事例をもとに、本事業の一環として総合評価部会の専門家の意見に基づき、医療事故の発生予防、再発防止のために作成されたものです。本事業の趣旨等の詳細については、本事業ホームページをご覧ください。<http://www.yakkyoku-hiyari.jcqh.or.jp/>  
 ※この情報の作成にあたり、作成時における正確性については万全を期しておりますが、その内容を将来にわたり保証するものではありません。  
 ※この情報は、医療従事者の裁量を制限したり、医療従事者に義務や責任を課す目的で作成されたものではありません。

